

## 竹内さんのウクライナ便り

3月11日、昨年日本で震災の発生したその時刻は、キエフでは午前7時46分でしたが、ウクライナ日本センターと在ウ日本大使館の呼びかけにより、都心のオペラ・バレー劇場前で追悼の集まりが持たれました。

各人がろうそくを持参、火をともして手にし、11分間の黙祷をするというもの。私は妻と参加しましたが、劇場に近づいていくと、予定の時間よりやや早くすでに黙祷が始まっていました。日本語を勉強している学生ら若い人や、キエフ駐在の日本人及びその家族と思われる数十名の参加。みぞれが降り風のある中で、ろうそくの火は何度も消えてしまい、それを点け直しているうちに時間が過ぎてしまいました。参加者らの写真を撮っている人たちが何人かおり、あとになってわかったのは、その中に昨年「救援・中部」のナタネプロジェクトを取材した日本の某通信社のモスクワ特派員O氏もいたということですが、その時は全く気づきませんでした。そもそも私の傾向として、街なかを歩いている時、知人に出くわす可能性というのを無意識のうちに排除しているらしく、周囲の人にほとんど注意を払っておらず、「竹内さん」と声をかけられて驚くのが常です。

この日夕刻同じ劇場で、東日本大震災とチェルノブイリという二つの惨事を追悼するコンサートも行われ、また3月13日には、震災後日本への支援をさまざまな形で行ったウクライナの諸団体や個人への感謝を表明する日本大使館主催のコンサートとレセプションが、やはり都心のフィルハーモニー・ホールで催されました。13日のレセプションには、我々の協力者であるジトーミルのホステージ基金のキリチャンスキー氏やドンチェヴァ氏、「チェルノブイリの消防士たち」のチュマク代表も招待されており、私はホステージ基金に書類を渡す都合があったので少しだけ顔を出しましたが、かなり多くの人たちでフィルハーモニーのロビーはいっぱいになっていました。あとでドンチェヴァ氏に聞いたところ、ジトーミルの彼らは日本酒をなめ、鮭をいくつかつまんだものの口に合わず（2月



<2月訪問ではジトーミル市内の学校で歓迎を受けた。>

の日本行きで和食に馴染んだドンチェヴァ氏を除く）、車でジトーミルに戻る途中お腹が空いてしまい、路傍のレストランに立ち寄って、ウクライナ料理とウォッカで飲み直した（？）ということです。

ちなみにここ数年、ウクライナでは日本料理を出す店がやたらに増えており、その中にはロシア資本のものもあるそうですが、チェーン店だけで「ヤキトリヤ」「スシヤ」「ムラカミ（「村神」と漢字をあてる）」、「日本の家[直訳]」「鮭の惑星[直訳]」などがあります。基本的に日本食に郷愁を持たない私は、自らこういう店に行きたいと思ったことがないのですが、つきあいでたまに行くと、これらのチェーン店のメニューは、アメリカ合州国起源（？）と思われるスシが主で、アボカドやマヨネーズ、チーズを用いた巻物があり、その名も「フィラデルフィア・ロール」「カリフォルニア・ロール」など。まあ、新鮮な海産物の供給には初めから無理がある土地柄なので、そういうことになってしまうのかもしれませんが。驚くべきことにこれらの店はそこそこ流行っている様子で、若い人たちや家族連れが箸を使いながらテンプラやスシをつまんでいます。しかし、失礼ながら、こういったチェーン店で出される料理を、私はおいしいと思ったことがありません。日本人の板前さんが働いているような高級日本料理店（に行ったことは稀にしかありません）に比べれば、値段はずっと安いのですが、同程度のお金を払えば日本ではそれなりのものが食べられることを思うと、どうもだまされたような気がしてしまいます。（3月28日）